

## 近現代史(30) 帝国主義と列強の展開④「ロシアの帝国主義・合衆国の帝国主義・インターナショナル」

### 【ロシア】

#### (1)ロシアにおける資本主義の発達

- ・1890年代から[1. フランス]からの資本導入によって資本主義が成長する。
- ・工業・銀行は外国資本の支配下におかれ労働条件も劣悪。
- ・国内市場が狭いため[2. シベリア鉄道]などの国家授業により国内開発、アジア・バルカン方面へ進出。

#### (2)ロシアにおける多様な政治潮流の出現

- 地主に対する農民運動+工業労働者のストライキ+インテリゲンツィアの専制体制批判
- ①[3. ロシア社会民主労働党]…1903年プレハーノフやレーニンにより結成されたマルクス主義政党。結成直後に綱領の決定をめぐり二派に分裂した。
- ・[4. ボリシェヴィキ]…レーニンが率いた一派。1903年の党内人事で多人数を占めたので「多数派」の意味。少数精鋭の革命家による武装革命を重視した。
  - ・[5. メンシェヴィキ]…プレハーノフやマルトフが指導。1903年の党内人事では少数であったので「少数派」の意味。ブルジョワ勢力をも含む広い大衆に基礎をおき、ブルジョワ社会主義革命を経たのちに社会主義革命を実現する漸進的革命を主張した。
- ②[6. 社会革命党]…通称エス=エル。1901年末に結成された。ナロードニキの流れをくみ、専制政治の打倒と農民への土地の再分配を目指した。
- ③[7. 立憲民主党]…通称カデット。1905年10月に設立したブルジョワ政党。立憲君主制の確立をめざし、第1、第2議会で第一党となった。17年の三月革命では臨時政府の中心となり第一次世界大戦を続行した。

#### (3)第一次ロシア革命

- 日露戦争の戦況が不利になって起こった[8. 血の日曜日事件]を契機に発生した革命運動。労働者の自治組織[9. ソヴィエト](評議会)が武装蜂起に立ち上がり、海軍でも反乱が起こった。日本と講和する一方、[10. 十月勅令]で国会開設を約束して収束を図った。

#### ■ 1905年の経緯

1月	血の日曜日事件	[11. ガポン]率いる平和デモに軍が発砲。第一次ロシア革命の発端
3月	12. 奉天会戦	日露戦争陸上最後の大決戦。日本は勝利したが国力が限界に達する
5月	日本海海戦	[13. バルチック艦隊]を日本海軍が日本海で撃破
6月	14. ポチョムキン事件	黒海艦隊で反乱。革命が初めて軍隊内に及び、戦争続行を断念させた
9月	15.	アメリカのセト・ア=ローズヴェルトが仲介して日本とロシアが講和。
10月	十月勅令	ヴィッテ起草。[16. 国会開設]と憲法制定を約束。
11月	17. ヴィッテ首相	国民に人気のあったヴィッテを首相に任命して沈静化を図る。

#### (4)[18. ストルイピン]の反動政治

- ・ヴィッテ解任後首相となり、議会の解散・革命派の弾圧など反動政治を強行した。
- ・[19. ミール解体]…ロシアの農村共同体ミールを農民の反抗と団結の基盤と見なして解体をはかり、土地を分与して自作農の創設を目指したが挫折。社会不安が増大し、暗殺された。



20. 体制の基盤が不安定になったので、政府は国民の注意をそらすため、バルカン半島での南下政策を強め、国際緊張を高めた。

## 【合衆国】

### (1) アメリカの帝国主義

- ・工業力が19世紀末に世界の首位となるまでに発展。
- ・国内で[21. フロンティア]が消滅するにつれ、海外への進出をめざす帝国主義政策を求める。

#### ■1897～1901 [22. マッキンリー]政権

##### ①1898年 [23. 米西戦争] カリブ海政策の一環

- ・キューバのスペイン反乱を支援して[24. メイン号事件]を口実にスペインに宣戦・圧勝。
- ・領土変更
  - [25. キューバ]独立 → [26. プラット修正]を押し付けて、キューバを保護国化。
  - [27. フィリピン]買収 → 独立運動の指導者[28. アギナルド]の抵抗を鎮圧
  - [29. グアム島・プエルトリコ]も獲得

##### ②[30. ハワイ]を併合 → グアムとフィリピンを連絡 「太平洋の飛び石」

##### ③[31. ジョン=ヘイ]の門戸開放宣言 → 列強の中国分割に対して門戸開放・機会均等・領土保全

#### ■1901～1909 [32. セオドア=ローズヴェルト]政権

##### ①[33. 棍棒外交]…カリブ海政策。「大きな棍棒を携えて、穏やかに話せ」と軍事力を背景に外交政策を展開。[34. コロンビア]からパナマを独立させて、パナマ運河を建設開始(1914 開通)

##### ②[35. ポーツマス条約]…日露戦争で日本を支援し、講和を斡旋。

##### ③[36. 革新主義]…産業の独占化・社会的不平等に対し、反トラスト法で独占を規制。ロックフェラーのスタンダード石油会社を標的とした[37. シャーマン法]を制定した。

#### ■1909～1913 [38. タフト]政権

##### ○[39. ドル外交]…海外投資の拡大によって政治的・経済的な影響力の増大をはかる外交政策。

### (2)[40. ウィルソン]政権(1913～1921)

##### ①[41. 新しい自由]…独占を打破し、自由競争を回復するための法的規制の重要性を説く政策方針。

##### ②[42. クレイトン反トラスト法]…独占を生み出す大企業の様々な行為を禁止し、不当競争を防止するための連邦取引委員会を成立させた。

##### ③[43. 宣教師外交]…独裁政治に苦しんでいる地域にすぐれたアメリカ流の民主主義を広めることが使命とする外交方針。ハイチ・ドミニカ・キューバなどカリブ海諸地域に海兵隊を派遣し、メキシコ革命にも介入。

## 【インターナショナル】

### (1)[44. 第1インターナショナル](1864～76) 正式名称は国際労働者協会

##### ①1863年のポーランド反乱を支援した各国の亡命革命家が翌年[45. ロンドン]で創設。

##### ②科学的社会主義を唱えるマルクスが無政府主義者[46. バクーニン]と論争。

##### ③1871年の[47. パリ=コミューン]を公然と支援。各国政府の弾圧を受けて活動停止。

### (2)[48. 第2インターナショナル](1889～1914) 正式名称は国際社会党会議

##### ①[49. フランス革命]100周年を記念するパリ万博に対して、パリで創設。8時間労働などを要求。

##### ②マルクス主義者ベーベルを中心とする[50. ドイツ社会民主党]を中心に戦争反対運動を展開。

##### ③[51. WW I 勃発]を契機に各党が自国の戦争に協力する方針に転換したため、活動停止。